



MY-HASI 宣言!

高速労中日本では、企業価値の向上に向け、環境問題の一環として「マイ箸宣言」を推進します。

今すぐ使える豆知識! ? あなたも今日から箸の雑学王!



晴れの祝箸! ?



お正月、結婚式の食卓に水引のかかった祝箸が並ぶと、おめでたい気持ちになりますが、中央が太くて両端が細い両口箸は、ふつつ柳で作られ、正月、結婚式、成人の日、桃の節句、端午の節句など晴れの日の祝儀に使います。これは①矢作は悪魔を払う霊木、②『家内喜(やなぎ)箸』と書く、③春いち早く芽を出し(おめでたい)ことから縁起が良い、④柳に雪折れなし、お箸には自分の魂が宿るといわれ、折れることを嫌うとして喜ばれ、使用されます。

中太は、俵箸、五穀豊穰又ははらみ箸で子孫繁栄。両口は一方を神が使い、他方を人が使い、めでたい時だから、神と食事を共にするという意味になっています。寸法も末広がり八寸(24cm)です。

十七夜法とマイ箸じゅ!



聖徳太子! ?

日本で初めて新しい箸食制度を、朝廷の供宴儀式で採用したのは聖徳太子であるとされています。これは、推古天皇 15(607)年、小野妹子を中国に派遣し、一行は箸と匙をセットした食事作法によって、盛んな歓待を受け、翌年、妹子らは隋使らと帰国しました。この時、日本では食事はまだ手食方法であり、妹子らが受けた中国の作法をまねて、宮中で初めて正式な箸食作法による歓迎の宴を催すことになりました。

そして、8世紀の初め、奈良の都・平城京造営の中で箸食制度も本格的にすすめられ、従来の生活習慣であった手食から箸食へと、生活革命が行われました。

一緒に取り組みましょう!

高速労中日本では、企業価値の向上に向け、環境問題の一環として『MY-HASI 宣言』(マイ箸運動)に取り組んでいます! 身近に取り組める環境問題、企業価値の向上を目指して、組合員皆さんの取り組みに期待しております!

また、クロスワード・パズル・クイズ2月号より正解者の中から抽選で3名の方にマイ箸(or図書券)を差し上げます。



中央執行部の面々



あなたも企業価値の向上に向けて「マイ箸宣言」しませんか!